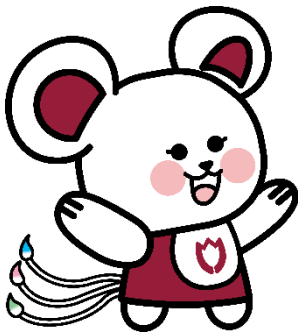


令和 6（2024）年度
地域連携センター活動報告書
（廿日市市との包括的連携協定外の活動）



山陽女子短期大学

地域連携センター

令和 6 年度 山陽女子短期大学地域連携センター事業一覧 (廿日市市との包括的連携協定外の活動)

整理 番号	事 項	実施時期	連絡責任者		新規 ○
			地域	本学	
1	みどり戦略学生チャレンジ	5 月	中国四国農政局	岡崎 藤原 松崎	○
2	薬物乱用防止「626 ヤング街頭 キャンペーン」	6 月	広島県西部保健所	有吉	○
3	ひろしま地域食材 PR 促進事業 (カキ、小豆皮)	7 月	ひろしま地産地消推進協議会	岡崎 藤原 水本 松崎	
4	食習慣改善指導	7 月	大竹市保健医療課健康増進室	吉村	
5	保健指導関連事業	7 月	NPO 法人くみサポ	吉村	
6	たられば防祭	8 月	無印良品	新谷	○
7	ひろしまフードフェスティバル	10 月	JA 広島	岡崎 水本	
8	大竹ふれあい健康・福祉まつり	10 月	大竹市健康福祉部保険医療課	津村	○
9	病院祭	10 月	廿日市記念病院	吉村	○
10	あいプラザまつり	11 月	廿日市市食生活推進委員	津村	○
11	広島県学生地域連携活動発表会	12 月	県立広島大学地域基盤研究機 構	新谷	○
12	エイズ啓発活動	12 月	広島県臨床検査技師会	岡村	
13	幼稚園児に向けた防災教育	12 月	広島都市学園大学付属幼稚園	新谷	○
14	感謝の夕べ	12 月	山陽女子短期大学	三島	○
15	地域のサロンでの栄養指導	2 月	鈴峯第四住宅集会所	吉村	
16	NHK 全国放送「ひろしまコイら じ」に生出演	3 月	NHK ひろしまコイらじ	新谷	○

事業報告

【 1 】

みどり戦略学生チャレンジ

岡崎 尚 (食物栄養学科) 藤原 久子(食物栄養学科) 松崎 好(食物栄養学科)

目的または趣旨	みどり戦略学生チャレンジへの参加
共催団体名および共催の経緯	食物栄養学科で取り組んでいる食品開発の研究やクラブ活動が連携できる。
年月日・開催時間	2024 年 5 月 1 日～2024 年 10 月 31 日
活動拠点	山陽女子短期大学
参加人数	参加大学(全体)：全国の大学 学生：6 名 教員：2 名
活動内容	地域の未利用食材（あずき皮、壊れた生カキ）を活用したパンとお菓子の製造を行った。学生たちの自由な発想から出来上がった、カキベーコンエビは、地元のパン屋から商品化の話があり、実際に商品化された。あずき皮を使ったお菓子は食物繊維リッチの付加価値のある商品として継続して商品化を目指している。
コメント	学生たちのふとしたアイデアを使って、開発を行ったが、楽しいことが大きな推進力となっていた。



【2】

薬物乱用防止「626ヤング街頭キャンペーン」

有吉 邦江（食物栄養学科）

目的または趣旨	広島県西部保健所が実施する薬物乱用防止キャンペーンへの協力
共催団体名および共催の経緯	広島県西部保健所から協力依頼があった。
年月日・開催時間	2024 年 6 月 29 日 14:00～15:30
活動拠点	ゆめタウン廿日市
参加人数	参加者：72 名 学生：8 名
活動内容	覚せい剤、大麻といった薬物の乱用防止を目的に、毎年 6 月 20 日から 7 月 19 日までの「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間中、全国でキャンペーンが実施されている。 広島県西部保健所がヤングボランティアを中心として行われた「626ヤング街頭キャンペーン」に参加し、薬物乱用防止と国連支援募金を呼びかけた。
コメント	お客様への呼びかけには抵抗感もあったと考えるが、それぞれが頑張って呼びかけ、全体で 33,469 円の募金が集まった。



【3】

広島市地域食材 PR 促進事業

岡崎 尚（食物栄養学科） 藤原 久子（食物栄養学科） 松崎 好（食物栄養学科）

目的または趣旨	広島 JA 主催の標記事業に参加し、学生のアイデアで地域の食材の活用を図る
共催団体名および 共催の経緯	食物栄養学科で取り組んでいる食品開発やクラブ活動が連携可能
年月日・開催時間	2024 年 7 月 1 日～2025 年 2 月 28 日
活動拠点	山陽女子短期大学
参加人数	参加大学：県内の主な大学 学生：8 名 教員：4 名
活動内容	地域の食材（カタクチイワシ、ジャガイモ、カキ、小豆皮）を活用したレトルトカレー、パン、お菓子の商品開発を行った。学生たちの自由な発想から出来上がった。カタクチイワシの魚醤油は、ひろしまフードフェスティバルで試作品を試食したところ高評価が得られた。
コメント	高評価の得られたカタクチイワシの魚醤油は、次年度製品化を目指す。

【4】

まめ豆教室

吉村 真奈美(食物栄養学科)

目的または趣旨	生活習慣病で通院治療されている方への食習慣改善指導
共催団体名および共催の経緯	大竹市保健医療課健康増進室
年月日・開催時間	2024 年 7 月 7 日 9 : 30 ~ 11 : 30
活動拠点	大竹市役所
参加人数	学生 : 2 名 参加者 : 15 名 大竹市職員 : 10 名
活動内容	パワーポイントを使用して生活習慣病について及び食事のポイント、PFC バランスや栄養素の役割、1 日の必要量等について説明する。 詳細としては ①生活習慣病/NCD s について ②生活習慣病の予防：一無二少三多・プラス 10・睡眠について ③生活習慣病についてガイドラインに沿って ④食事チェック 10 食品群チェック表・食事チェック ⑤1 日に必要な栄養素について エネルギー量及びたんぱく質量について ⑥バランスの取れた食事について ⑦PFC 比、さあにぎやかにいただく 等
コメント	15 名の参加者が熱心に聞いておられた。講義後質問もあり、1 日 6 g の塩分について、その摂取法について説明を行う。60 分の講義としては盛沢山な内容であったが、興味関心のある方々でしたので、しっかり理解していただいた様子でした。

【5】

保健指導関連事業

吉村 真奈美(食物栄養学科)

目的または趣旨	食事と介護の困りごと相談
共催団体名および共催の経緯	NPO 法人 くみさぼ
年月日・開催時間	2024 年 7 月 20 日 13:00～15:00
活動拠点	あいプラザ
参加人数	参加者：10 名
活動内容	本日のミニ講座として「夏に気をつけたい脱水症と熱中症」について説明を行う。 資料を基に ①水分について ②1 日に必要な水分量について ③脱水症と脱水症のチェック法 ④かくれ脱水について ⑤最適な水分補給について ⑥熱中症について これから脱水症が多くなる時期ですので、関心を持って聞かれていました。
コメント	これからの時期、熱中症や脱水症で救急搬送される方が多いので、脱水のチェック法など直ぐに役立つことが多い内容であった。高齢者の方は特にご自分が脱水状態になっていることが気づきにくい傾向にあるため、今後の日常に役立てていただきたいと思います。

【6】

西日本最大の「たられば防祭」への参加

新谷 奈苗(人間生活学科)

目的または趣旨	地域住民への防災意識の向上/企業とのコラボ活動
共催団体名および共催の経緯	西日本最大の防災イベント （無印良品の活動枠）
年月日・開催時間	2024 年 8 月 21 日 10:00～13:00
活動拠点	アルパーク
参加人数	対象の参加者数：35 名 参加学生数：12 名（内 9 名広島都市学園大学学生）
活動内容	地域住民の防災意識向上の目的で、西日本最大の防災イベントに無印良品とのコラボ事業として参加した。内容は佐方市民センターで実施した内容を少しボリュームアップしたものであったが、今回の活動では、無印良品という企業とのコラボによって、企業との連携協力を図ることを学生の学びの目標に追加し取り組んだ。当日は、さまざまな年代の買い物客を対象に実施したことで、前回の高齢者だけでなく、成人期の方々や学童、幼児も加わり、対象が異なる事での表現の難しさを学ぶことができた。また無印良品、関連企業の方々との事前の打ち合わせや、当日の準備状況など、ひとつのイベントを開催するための裏方の仕事を学ぶ機会となった。
コメント	イベントに参加してくれた対象者は買い物に来られた方であったため、様々な年代の方々が対象となった。そのため誰が参加してくださるのか明確にならない状況で健康教育の準備をすることとなった。会場に集まってくださった対象をその場で判断し、防災筋トレの伝え方を変えたり、理解しやすいように動作を大きくしたりなどの工夫を凝らしていた。通常であれば対象が決まったなかでの取り組みであるが、今回のイベントはとっさに表現方法をかえていかなければならない困難なものであった。そのお陰で、さまざまな対応力が身についたものと考えられた。



広背筋

【作用】

- ・目の前にあるものを手前に引き寄せるような動作

【効果】

- ・肩こり解消
- ・五十肩予防
- ・肩関節拘縮の防止



【7】

ひろしまフードフェスティバル

岡崎 尚（食物栄養学科） 水本 沙織（食物栄養学科）

目的または趣旨	ひろしま地域食材PR促進事業の事業内容の紹介
共催団体名および共催の経緯	ひろしま地域食材PR促進事業への参加による
年月日・開催時間	2025 年 10 月 27 日
活動拠点	山陽女子短期大学
参加人数	イベント(全体)：多数
活動内容	大学で試作した、カタクチイワシ魚醤を、希釈して来客者に試飲していただいた。(250 カップ) 希釈した魚醤の味について、評価を聞き取りした。 イワシの臭いがなく、調味料として使えそうだという評価とともに、希少な調味料なので販売されないのかとの声もあった。広島の水産物として、カタクチイワシは有名であるが、品質劣化しやすい生鮮物で土産物に加工されていない。お客様の中には 250mL1 本を 1,000 円でも買いたいといった声があった。
コメント	魚醤の評価ということで、お客様に来ていただけるか心配であったが、広島県の担当者の協力もあり、準備した 250 人分を提供できた。お客様の好意的な声があり、商品化をするためには作っていただけたところを見つける必要があり、これから検討したい。

【8】

大竹ふれあい健康・福祉まつり

津村 なみえ（食物栄養学科）

目的または趣旨	実物大フードモデルを使った栄養バランスチェック
共催団体名および共催の経緯	主催：大竹市・大竹市社会福祉協議会 経緯：大竹市健康福祉部保健医療課健康増進係から依頼があり実施。 令和4年度広島西二次保健医療圏域食育推進連絡会議にてSATを紹介したことをきっかけに、令和6年度まめ豆教室でSATを使用、今回に至る。
年月日・開催時間	2024年10月27日 9:30～15:00
活動拠点	大竹市総合福祉センター サントピア大竹 2F
参加人数	教員：1名
活動内容	「2024 大竹ふれあい健康・福祉まつり」にて、朝食をテーマに食育 SAT システムによる食事バランスチェックを行った。大竹市食生活推進員さんに協力していただきながら実施し、バランスチェック結果のプリントアウトと簡単な解説をその場で行った。バランスチェック体験者は延約 100 名であった。開始直後から多くの方が来られ、半数が 75 歳以上、7 割が 65 歳以上と高齢者が多かった。
コメント	協力していただく食生活推進員さんの担当者は午前と午後に分かれて担当されていたが、予め役割分担をしていただくのが良かった。

【9】

病院祭

吉村 真奈美(食物栄養学科)

目的または趣旨	医療機関・一般企業・教育機関の連携による地域交流イベントを企画することで、地域住民の健康増進と共にこれからの多職種・他職種連携の一助につながる
共催団体名および共催の経緯	廿日市記念病院
年月日・開催時間	2024 年 10 月 27 日 10:00～15:00
活動拠点	廿日市市陽光台
参加人数	イベント(全体): 約 400 名 学生: 7 名 教員: 1 名
活動内容	病院祭の受付ボランティアとして活動する。 アンケートの説明・脳ドッグの紹介・本日の催し物紹介及びキッチンカーのチラシを受け付け時に配布し、対応する。また、来場者の人数をカウントした。 実際の活動時間としては9:00～15:10であった。学生には昼食代として2,000 円の支給があった。
コメント	第1回目ということでしたが、盛況で400名の来場者がある中、丁寧にアンケートのお願いや説明を学生7名で対応できていた。声もしっかり出ており、若いパワーで笑顔もあり、来場者の方からも病院職員からも評判が良かった。



【10】

あいプラザまつり

津村 なみえ（食物栄養学科）

目的または趣旨	フードモデルとパソコンによる食事バランスチェック
共催団体名および共催の経緯	主催：廿日市市健康福祉総務課 経緯：廿日市市食生活推進員 会長 山下様から依頼があった。 廿日市市健康福祉部健康福祉総務課健康づくり係管理栄養士竹森千晶様コーディネート
年月日・開催時間	2024 年 11 月 3 日 9：30～13：00
活動拠点	山崎本社 みんなのあいプラザ 2F
参加人数	教員：1 名
活動内容	「第 19 回あいプラザまつり」にて、食育 SAT システムによる食事バランスチェックを行った。廿日市市食生活推進員さん 10 名の方との協力で実施し、バランスチェック結果のプリントアウト、解説場所も設けての解説も行った。バランスチェック体験者は延約 130 名であった。家族連れの参加者も多く、子供から成人、高齢者まで幅広い年齢層であった。
コメント	解説コーナー4名の担当は交替で担当することとしていたのだが、声を掛けても誰も交替することが無かった。4名の担当者は休みなく解説し続け大変そう で、解説の担当人数を増やして対応するのが良かったかと思った。



【11】

第3回 広島県学生地域連携活動発表会での発表

新谷 奈苗(人間生活学科)

目的または趣旨	広島県内大学の学生たちが地域連携活動を発表
共催団体名および共催の経緯	県立広島大学 地域基盤研究機構
年月日・開催時間	2024年12月7日 13:00~17:00
活動拠点	広島県立大学広島キャンパス（広島市南区宇品東1丁目1番71号）
参加人数	イベント(全体): 約200名 本学学生: 5名、広島都市学園大学学生3名（協同での活動報告発表）
活動内容	地域連携活動の発表をパワーポイント資料を用いてステージ上で発表したのと同時に県立広島大学のロビーにおいてポスターセッションで公開し、質疑応答にも対応した。発表ではHiroshimaまもり隊サークルで行ってきた防災意識の向上活動を地域住民、企業、行政とともに進めてきたことの工夫や学びを発表し、今後の計画を紹介し締めくくった。
コメント	他大学学生の発表から、活動の工夫や資料の作成、発表の仕方など多くを学んでいた。活動の集大成として多くの方々の前で披露することができて達成感につながったものと考えられた。



【12】

世界エイズデー「レッドリボンキャンペーン in 広島」

岡村 美和(臨床検査学科)

目的または趣旨	若者を中心としたエイズの予防啓発
共催団体名および共催の経緯	主催：広島県、広島市、一般社団法人広島県臨床検査技師会、特定非営利活動法人りょうちゃんず
年月日・開催時間	2024 年 12 月 7 日 12:00～16:00
活動拠点	広島市中区西新天地
参加人数	本学学生：6 名 学生：12 名 教員：2 名 臨床検査技師会員 30 名程度
活動内容	広島繁華街で、エイズに関するリーフレット等の配布 臨床検査技師による HIV・梅毒の簡易検査
コメント	多く人が賑わう街中で主にリーフレットを手渡す活動をした。最初はなかなか受け取ってもらえず苦労したが、要領をつかむと多くの人に手渡すことができた。エイズの正しい知識が少しでも多くの方に届いてほしい。



【13】

幼稚園児に向けた防災教育

新谷 奈苗(人間生活学科)

目的または趣旨	園児に向けた防災教育
共催団体名および共催の経緯	広島都市学園大学附属幼稚園
年月日・開催時間	2024 年 12 月 13 日 14:00~17:00
活動拠点	広島市南区宇品西 5 丁目 13-18 広島都市学園大学附属幼稚園
参加人数	園児参加者数: 30 名 参加学生数: 15 名 (内 10 名広島都市学園大学学生)
活動内容	広島都市学園大学附属幼稚園の年中児に対して、災害時の防災教育を行った。災害(地震)の怖さやひとりでお留守番をしていたときに地震が起こったらどうする?といった内容を紙芝居を作り説明をした。その後、防災頭巾を被って煙の中をどう非難するかなどを実演してもらい、最後にクイズやゲームをして交流を図り終了した。
コメント	学生たちは年中児という幼児を対象に、どのような方法を講じれば園児に伝わるのかをプライマリーヘルスケアの概念をもとに工夫を凝らした。その努力もあって、園児たちを飽きさせることなく学んでもらうことができた。最後には理解度を確認するためのクイズを行い、自分たちの事業に対する評価とした。学生は、対象にあわせての表現の工夫を学ぶことができたことと、他学の学生と協働することの難しさと楽しさを感じていた。



【14】

感謝の夕べ

三島 清司(臨床検査学科)

目的または趣旨	本学の運営にご協力いただいている地元佐方地区や同窓会の皆様に感謝を伝えると共に教職員との交流を図る機会とする。
共催団体名および共催の経緯	山陽女子短期大学
年月日・開催時間	2024年12月19日 17:30～19:00
活動拠点	山陽女子短期大学 Sun Cafe
参加人数	自治会関係者：2名 同窓会：6名 その他来賓：6名 学生：2名 本学教職員：24名
活動内容	軽音楽部学生の演奏で開幕、軽食や飲み物を摂りながら卒業生によるフラダンスと沖田先生ご夫妻によるヴィオラとピアノの演奏を鑑賞した。その後、ゲームで交流を深めた。最後にサンタクロースが登場し、参加者にプレゼントを渡し終了となった。
コメント	昨年度に引き続き学長直下プロジェクトとして2回目の開催となった。来賓の皆様へ本学の感謝の意を伝える時間となった。年末の多忙な時期でもあり、当日出席いただけない来賓の方もあり残念であった。また、限られた時間であり、参加者同士の交流を十分に図ることができなかった。



【15】

地域サロンでの「フレイル及び骨粗しょう症防止」の栄養指導

吉村 真奈美(食物栄養学科)

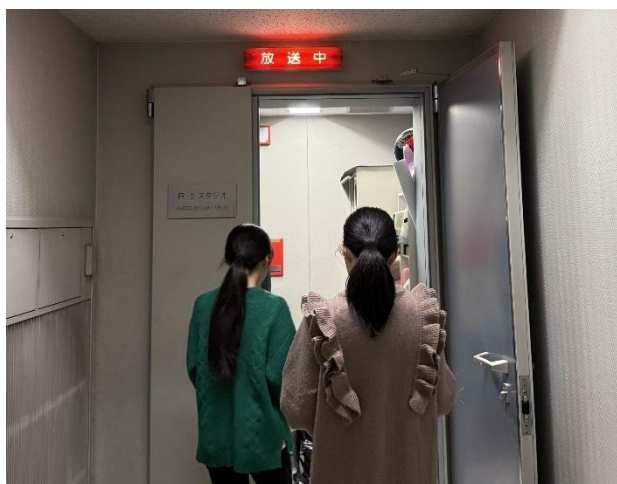
目的または趣旨	広島市西区鈴が峰町第4クロバー体操の皆様への栄養指導
共催団体名および共催の経緯	鈴が峰町第4クロバー体操
年月日・開催時間	2025年2月25日
活動拠点	鈴が峰第4住宅集会所
参加人数	参加者：15名
活動内容	パワポ資料を基に80分間の講義を行う。フレイル対策及び骨粗しょう症予防の食事について行う。 内容としては、 ①高齢者の実情 ②フレイルについて ③高齢者の体の変化 ④1日に必要なエネルギー量について ⑤1日に必要なたんぱく質量について ⑥骨粗鬆症について ⑦骨粗鬆症予防の食事について ⑧まとめ 以上をレクチャーした後、質問を受けた。質問はご飯にもたんぱく質が含まれているか？骨粗鬆症の薬を処方されているが、サプリメントは必要か？といった内容であった。
コメント	実際に計算機を使用してご自分の1日のエネルギー量及びたんぱく質量を計算していただき理解が深まったようである。10食品群のチェック表、食事バランスチェックシートも配布し、よりご自分の現在の食事が見える化されるよう工夫を行った。1週間に1度仲間と集まり、勉強会や運動をされているため、フレイル等の勉強会が多いようであるが、具体的な食事の話は少ない為、参考にしていただく内容であったと感じた。

【16】

NHK 全国放送「ひろしまコイらじ」に生出演

新谷 奈苗（人間生活学科）

目的または趣旨	地域への防災意識向上活動の報告を NHK ラジオに出演して公開
共催団体名および共催の経緯	NHK ひろしまコイらじ
年月日・開催時間	2025 年 3 月 4 日 16:00～18:00
活動拠点	NHK 広島放送局（広島市中区大手町 2 丁目 11-10 NHK 放送センター）
参加人数	参加者数：全国のリスナー 参加学生数：2 名（内 1 名広島都市学園大学学生）
活動内容	2024 年度の Hiroshima まもり隊サークル「防災意識向上のための活動」について NHK 広島のラジオ番組「コイらじ」に生出演し、活動の内容を報告した。その中で、本サークル活動の目的、活動時に工夫したこと、今後のサークル活動の計画、今後の自分にこの経験をどう生かすか等についてラジオパーソナリティから質問を受ける形式で進められた。学生はテキパキと明るい声で要点をおさえ説明をした。ラジオ生出演の経験と、舞台裏の努力を学ぶ機会となった。
コメント	学生は自分たちの活動の年間の集大成として、ラジオで多くの方に防災意識の大切さ、備えの大切さについて説明を行った。このような機会を通じて、活動に達成感を感じたものとする。



令和 6（2024）年度
地域連携センター活動報告書
（廿日市市との包括的連携協定外の活動）

2025 年 3 月 31 日発行

発行者 山陽女子短期大学

地域連携センター

広島県廿日市市佐方本町 1 番 1 号

電話 0829-32-0909
